

●前回(1月28日)以降のデータ公開数は約7,000件

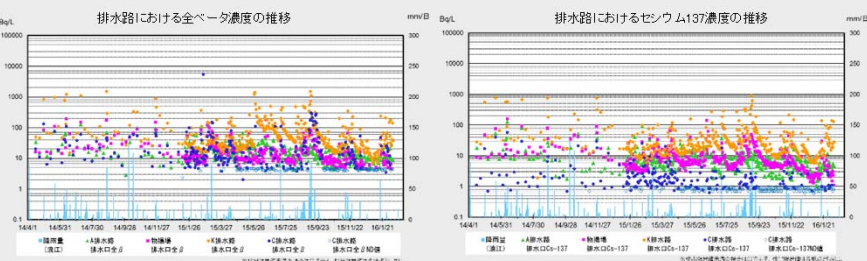
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約7,000件を公開しました。

●1号機原子炉建屋カバー内散水設備の設置開始。ダスト(粉じん)濃度は安定

1号機につきましては、昨年7月28日より建屋カバー屋根パネル取り外しを開始し、10月5日に屋根パネルの取り外しを完了しました。その後、散水設備設置に支障となる鉄骨撤去を実施し(今年1月8日～2月3日)、2月4日から散水設備の設置作業を実施中です。この間、自然界の物質や構外通過車両の影響を除き、敷地境界8箇所を含め、敷地内のダストモニタのダスト(粉じん)濃度に有意な変動は確認されませんでした。今後も、飛散抑制対策を着実に実施し作業を進めていきます。

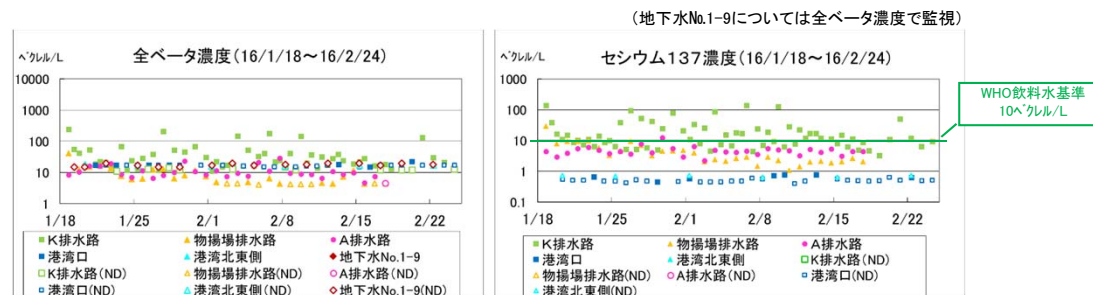
●排水路の放射性物質濃度の傾向

A、K、BC、物揚場の各排水路については、道路、排水路の清掃やK排水路出口の港湾内への付替え工事等の対策を実施しております。各排水路出口付近の放射性物質濃度は低減傾向にあるものの、降雨時には上昇が見られます。今後も更なる濃度低減に向け、調査と対策を継続してまいります。



A 水(海水、排水路、地下水等)

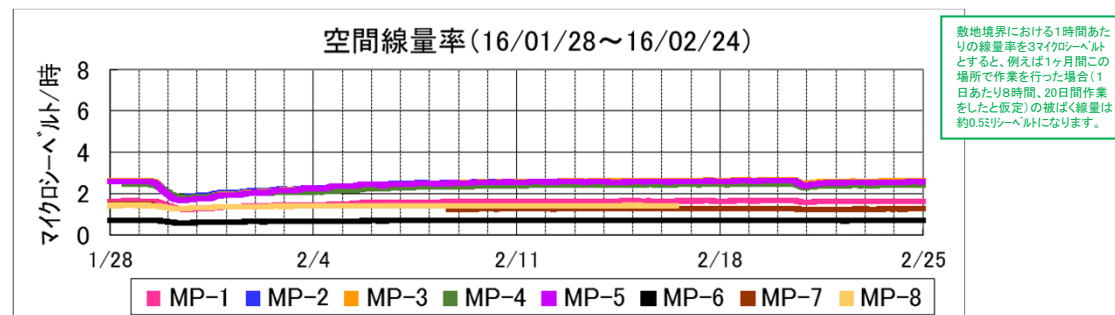
- ・K排水路では、降雨時に濃度上昇が見られるものの、昨年のような大きな上昇ではない状況。
- ・セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- 物揚場排水路、A排水路の最新データは2016年2月17日。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

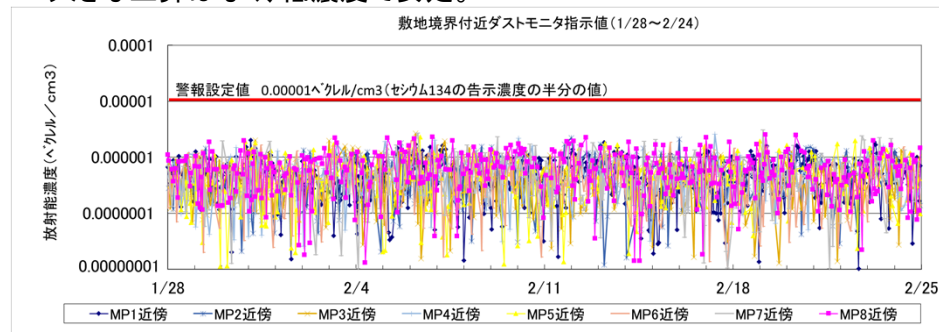
- ・降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



- MP-4: 1/20～1/28は、リプレース工事のため欠測(代替測定器による監視を実施)。
- MP-7: 1/29～2/8、リプレース工事のため欠測(代替測定器による監視を実施)。
- MP-8: 2/16～リプレース工事のため欠測(代替測定器による監視を実施中)。

C 空気中の放射性物質

- ・大きな上昇はなく、低濃度で安定。



- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

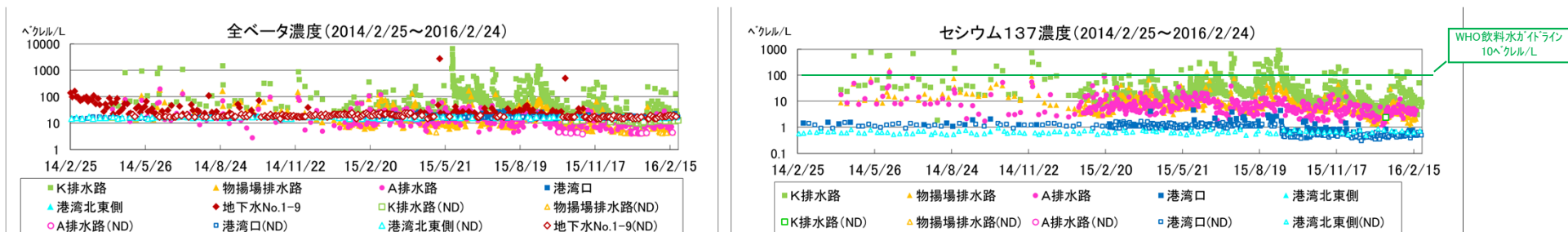


データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

放射線データの概要 過去の状況

A 水(海水、排水路、地下水等)

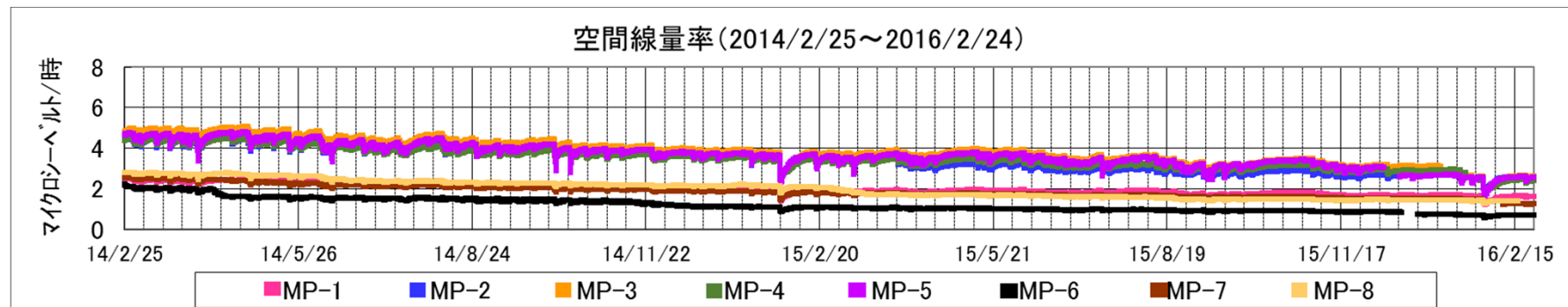
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路は比較的高い傾向。現在、清掃やC排水路への汲み上げ等の対策を実施中。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。また、物揚場排水路、A排水路の最新データは2016年2月17日。

B 空間線量率

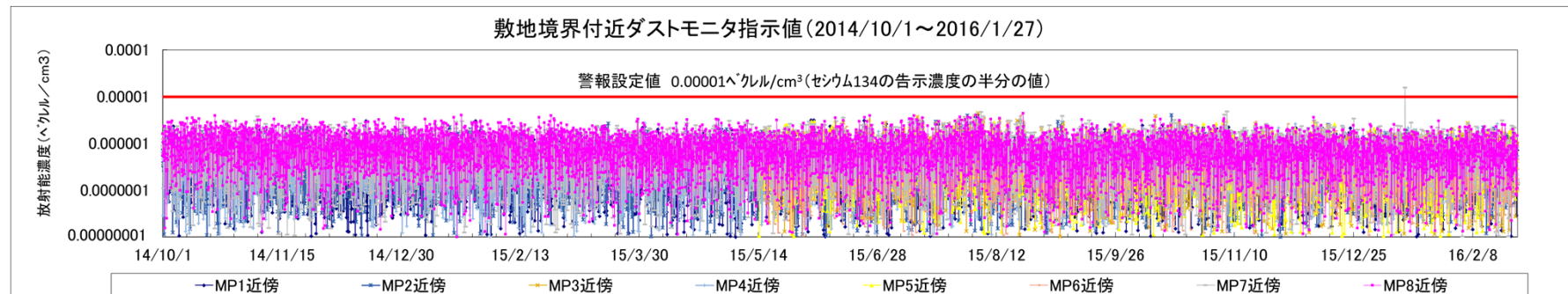
- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



・MP-6: 12/18~26、MP-3: 1/7~15は、リプレース工事のため欠測(代替測定器による監視を実施)。MP-4: 1/20~、リプレース工事のため欠測(代替測定器による監視を実施中)。

C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



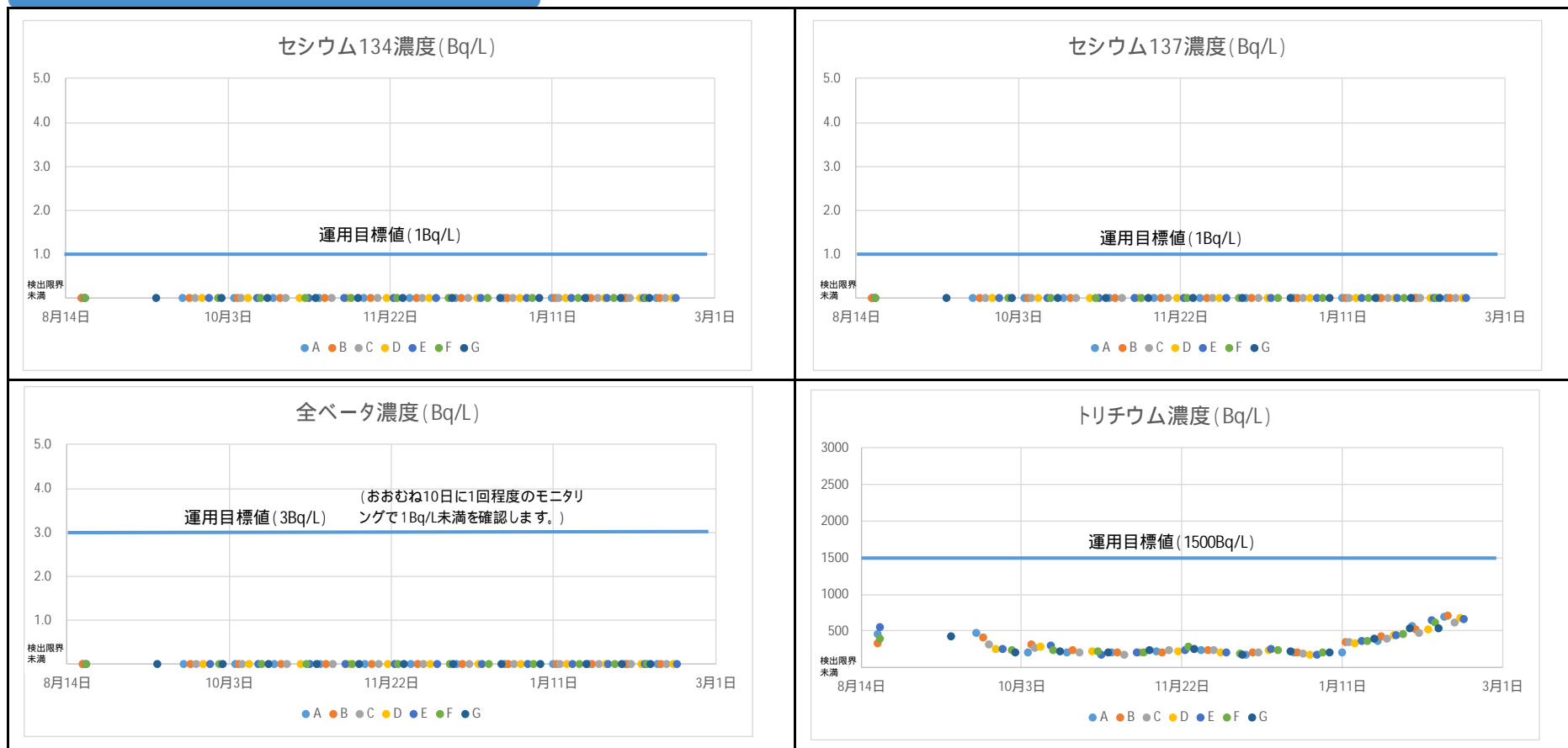
・MP1、2、4、7、8近傍は2014年10月1日、MP3、5、6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、9月14日から2月23日までに合計85回、66,342m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

日々の放射性物質の分析結果の一覧表形式での公開について

日々の放射性物質の分析結果

日々の放射性物質の分析結果は、全ての放射線データの公開の取り組みの一環として、平成27年4月30日より福島第一原子力発電所で行われている臨時分析データを対象として公開を開始しました。（平成28年2月19日までの累計公開件数は約15,300件）

公開方法については、これまで試料毎に測定記録を公開していましたが、平成28年2月15日から平成27年4月30日以降公開したデータも含め、関連する分析結果をまとめて一覧表形式での公開を開始しました。（一部のデータについては8月20日から一覧表形式に移行済み）

これにより過去に公開したデータも含め全てのデータをより簡単にご確認頂くことが可能になります。

分析結果の閲覧方法

日々の放射性物質の分析結果のページ（URLは下記）



2月14日以前

分類項目及び公開日をクリック

試料毎に測定記録を公開

測定結果報告

報告日 2016年 3月 9日

1 / 1 ページ

下記通り分析結果を報告します。

分析群名グループ

試料採取月日 2015年 10月 8日

試料番号	試料名	試料採取時刻		
化-20151006-35-4	[X] 地下水-地下水バイパス一時貯留タンク水	9:54		
分析項目・単位 (上記) / 分析種 (下記)				
Tc-99 Bq/L	I-129 Bq/L	Ni-63 Bq/L	Cd-113m Bq/L	Y-91 Bq/L
< 2.317E-02	< 7.787E-03	< 2.360E-01	< 2.418E-02	< 2.479E-01

備考
 ・Ni-63 : 100倍濃縮水。
 ・Cd-113m : 100倍濃縮水。
 ・Y-91 : 100倍濃縮水、ガンマ線検出器分析値を採用。
 ◎放射線以外の分析項目に係るアクションレベルは、設備や機器の操作を判断する運用上の基準値として使用しています。

2月15日以降

分類項目をクリック

分類項目ごとに分析目的や分析頻度を一覧表形式で公開（過去に測定記録の形で公開していたものは除く）

分析計画名称	排水路の放射能調査
計画番号	0000012
試料名称	D排水路;河川-A排水路-自動採水器-下流
試料性状	液体
試料採取期間	2015年1月19日～2016年3月3日
分析目的	敷地境界における排水による線量影響評価のため
公表予定日	分析結果が判明してから10日以内
分析頻度	毎日
分析項目/目標検出限界値/アクションレベル	全ベータ / 5Bq/L未満 / 2.0 × 10 ⁴ Bq/Lを超える トリチウム / 10Bq/L未満 / 1.0 × 10 ⁴ Bq/Lを超える セシウム-134 / - / - セシウム-137 / 1Bq/L未満 / 1.0 × 10 ⁴ Bq/Lを超える
分析結果	CSV ※CSVは一度ダウンロードしてからご覧ください

分析結果をクリック

関連する分析結果をまとめて一覧表形式（CSV形式）で公開（下図はExcelで閲覧した場合の例）

日々の放射性物質の分析結果については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring2/index-j.html>をご覧ください。
 （線量率等の測定結果については、引き続き測定記録をPDFファイルで公開しています。）